

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



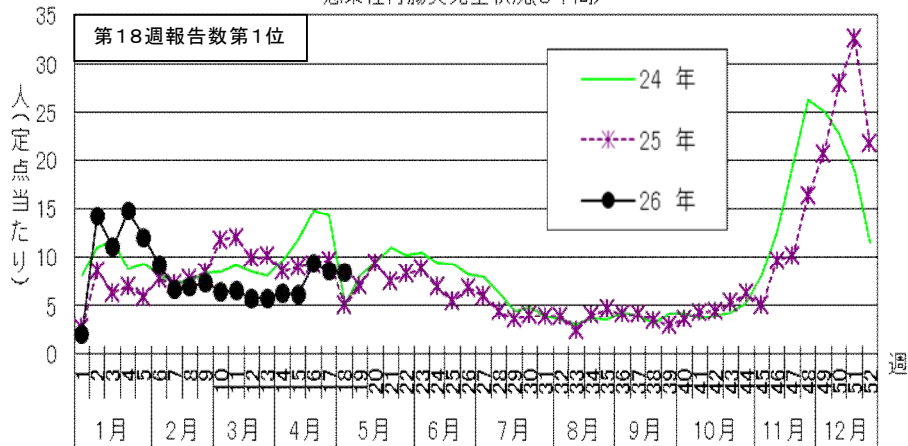
KAWASAKI CITY



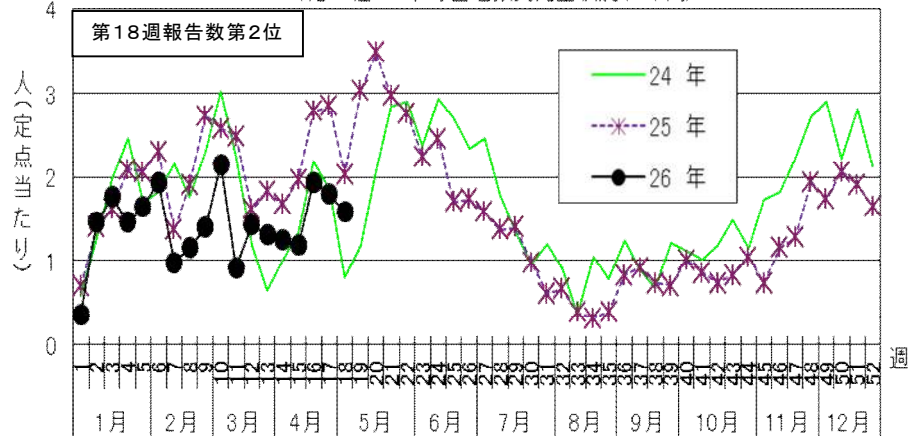
平成26年4月28日(月)～平成26年5月4日(日)〔平成26年第18週〕の感染症発生状況

第18週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。
 感染性胃腸炎は定点当たり8.36人と前週(8.55)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.58人と前週(1.79)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり0.92人と前週(1.94)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



これから注意したい感染症～咽頭結膜熱～

現在、全国的に咽頭結膜熱(プール熱とも呼ばれる)の患者報告数が増加しています。また、川崎市においても第18週に報告数が増加しました。これから夏を迎え、さらに増加すると推測されるため、今後注意が必要です。

咽頭結膜熱ってどんな病気？

- アデノウイルスによる感染(飛沫・接触感染)で、39℃前後の発熱、咽頭炎・結膜炎などを発症
- 潜伏期間は5～7日で、小児(特に5歳以下)に多い
- 通常、6月頃から徐々に流行が始まり、7～8月にピークとなる
- 感染者の咳やくしゃみなどに含まれるウイルスによって感染する
- 感染者が触れたタオルや物、ウイルスに汚染されたプールの水などを介して、ウイルスが口や眼などの粘膜に入って感染する



咽頭結膜熱の予防方法は？

- 感染者との密接な接触は避ける
- 流水と石けんによる手洗いを徹底
- タオルの共用は控える
- プール利用前後にシャワーを浴びる

川崎市における咽頭結膜熱発生状況

